

国指定重要文化財

# 江藤家住宅 一般公開



国指定の重要文化財である「江藤家住宅」がからもフェスティバルと同日の11月14日に一般公開された。公開日には、150人以上の人が訪れた。町内外から来た人たちは、ボランティアガイドによる屋敷の説明を聞き、歴史と文化を感じた。

江藤家住宅の所有者である江藤家は、家伝によれば豊後(現大分県)の出身で、主家大友氏を関ヶ原の戦いで失い、江戸初期に肥後(現熊本県)に移住した。その後、合志郡陣内村(現大津町)に定着、豪農としての道を歩き出した。

江戸中期から江藤家は、御家人として代々人望を集めた。そのため住宅は在御家人の屋敷としての装いと風格を備え、肥後の農業地域においては特異とも言える豪華な武家風の住宅に発展した。

家産維持のための所有者の懸命の努力。そして住宅を維持したいとする地域の人々の献身的な協力があり、江藤家住宅では、現在でも所有者である江藤家の生活が続けられている。



2

1\_広間の屏風は天保11年(1840年)のもの。琴の音色と雰囲気に含まれ、心は時をさかのぼる。2\_「次の間」は本格的な書院で、上客を接待する部屋。天井は棹縁天井で、床の壁は金箔を12枚貼った貼壁だ。3\_邸内に唯一現存する蔵(土蔵造2階建て)。安永元年(1772年)の建築と言われている。秋の公開時期にしか見ることができない紅葉が、より一層白壁を引き立たせる。4\_琴は、生田流の浜坂和美さん野田昭子さんによる演奏。5\_野点も行われ、お茶が振る舞われた。また多くのボランティアガイドの皆さんが丁寧に説明を行った。6\_和菓子も振る舞われた。「川砂糖」(左)と「琉球蜜柑」(右)は江戸時代のお菓子を再現したものである。



3



5



6



1



八並真理さん 八並健児さん  
八並優月くん 八並奏太くん (大林)

## 本物の良さを見てきました

平成18年に大津町に引っ越してきて、始めて江藤家住宅を見ることができました。今日は、午前中からいもフェスティバルに行ってバスに乗って家族で見に来ました。江藤家住宅はずっと見たいと思っていたのでうれしかったです。

江藤家住宅を見た瞬間「本物だ」と思いました。建物に関心があって興味を持って見ていたのですが、作り方や素材まで本物の重厚感がありました。家族で見に来て本当に良かったと思っています。



4